

登録コード:MH137300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	選択
科目名	親子関係論【20M～24M】 Introduction to Parent-Child relationship			
担当教員	中込 さと子 芳賀 亜紀子・徳武 千足			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学科看護学専攻3年生 前期(前半) 火曜・3時限 火曜・4時限			
単位数、講義室	1単位	保健学科221講義室	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	非該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH22カリ・保健、MH20カリ・保健			
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。		性と生殖の健康と権利、母子関係理論を学び、親になる人の全人的理解に即したケアを考究する。	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		女性支援と母子保健施策の枠組のセルフケア・ヘルスプロモーション・エンパワメント理論を学ぶ。	
	文化の多様性を理解し、国際的視野に基づいた保健・医療活動の必要性とその方法を理解できる。		諸外国の子育てと保健医療福祉について、医療人類学的視点から学ぶ。	
	MH23カリ・保健・看護			
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		性と生殖の健康と権利、母子関係理論を学び、親になる人の全人的理解に即したケアの枠組みについて考究する。	
授業で学べる「テーマ」	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。			
	母子保健、性と生殖の健康と権利（SRHR）に関する日本と世界の政策の違いを知り、国内における課題克服と目標達成の方略を創り上げる基礎的力を習得する。			
授業で学べる「テーマ」	環境共生、多文化協働			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	親子の関係形成に関連する理論と、親になる人への助産ケアについて学び、子どもを産み育てる人々に、地域精神衛生を踏まえたきめこまやかなケアを提供する資質を養うことをねらいとしています。 本授業は、母性看護学（概論、健康論、方法論）、助産学概論、その後の助産診断技術学をさらに深め、広げる科目です。そして、この科目は、助産師国家試験の受験に必要な科目となっています。 教員の母子保健、周産期医療における助産師・保健師・認定遺伝カウンセラーとしての実務経験を生かして講義を行います。			
授業計画	第1回(5月19日3限)親子の絆について子育ての実際から考える（芳賀） 第2回(5月19日4限)父親、母親の成長を事例を通して考える（芳賀） 第3回(5月26日3限)子どもの虐待について（徳武） 第4回(5月26日4限)子どもを事故から守る子育て環境を考える（徳武） 第5回(6月 2日3限)SRHRに関する課題の調査中間発表（中込） テーマ：「妊活」そして生殖補助医療を選択したカップル テーマ：身体・知的・精神障害がある人の結婚と出産と子育て 第2回(6月 2日4限) SRHRに関する課題の調査中間発表（中込） テーマ：計画外の妊娠・支援者がいない感覚をもつ女性の選択 テーマ：夫婦間暴力、性犯罪、児童虐待の被害者の出産と子育て 第7回(6月 9日)SRHRに関する最終発表 テーマ （中込） 第8回(6月 9日)SRHRに関する最終発表 テーマ （中込） 授業アンケートの実施 第9回(8月14日頃)期末レポート提出 本講義は、4月に助産学概論の集中講義の後、5月から開始します。			
授業の進め方	本授業は、講義とグループ討議、相互のレポートを読みあう形で進めます。 第1、2回、第3、4回は講義とグループ討議で行います。事前に講義資料に関連した学習をしましょう。 第5～8回は2人1組 1テーマに取り組みます。履修登録を確認し、教員から通知をします。ペア学生を知らせます。ペア学生と以下の準備をして授業に臨んでください。 取り組み1 課題 ～ の中から1つをえらぶ。 2 課題をさらに絞り込み、テーマを決める。 3 課題に必ず入れることは、課題の背景や歴史、関連制度の変遷、当事者の実態調査結果の収集とまとめ、考察 最終講義の後に授業アンケートをお願いします。			
テキスト、教材、参考書	参考図書（助産師コースの学生は は必携図書として購入してください。） 助産学講座2 基礎助産学[2]母子の基礎科学, 医学書院, 6版, 2024. 助産学講座3 基礎助産学[3]母子の健康科学, 医学書院, 6版, 2024 . 助産学講座4 基礎助産学[4]母子の心理・社会学, 医学書院, 6版, 2021. 母性看護概論、母性看護健康論、母性看護方法論テキスト 母性看護学 概論：リプロダクティブヘルスと看護, メディカ出版, 2022. 母性看護学 母性看護の実践, メディカ出版, 2022.			

テキスト，教材，参考書	病気がみえる，産科・婦人科 その他、図書館（OPAC）を利用して関連書籍を活用しましょう。
成績評価の方法	第1～4回は、第1～2回の発表会で他の学生の関心を高め、自分たちの期末レポートの作成に活かしてください。第5～8回講義では授業に関連した小レポートを課します。期末レポートは、第5～8回講義での学習も活かして作成してください。 1 期末レポート 70点 2 第1，2回講義小レポート 15点 3 第3，4回講義小レポート 15点 4 総合評価は、1～3の総点です。
成績評価の基準	レポートの内容の評価基準は以下の通りです。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可とする。 ()問題の設定が適切であり、()その問題の背景を説明できており、()その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、()それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、()そのうえで自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば、「卓越している(秀)」。()から()の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」，4項目までできていれば「やや上にある(良)」。3項目までできていれば「水準にある(可)」とします。
事前事後学習の内容	本授業の単位習得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間15時間（2時間×7.5回）+自己学習時間30時間（4時間×7.5回）= 45時間 リーディング課題 第1,2回 図書 2章(家族関係の発達と課題) 第3,4回 図書 3章(母子と嗜好品・薬物) 第5-8回 テーマに沿って自己学習しましょう。 助産師コースの学生には教員が資料を渡します。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	オムニバスで進みますが、どの担当の先生でも良いので、何かあれば相談してください。なお、中込のメールは以下のとおりです。（snakagomi@shinshu-u.ac.jp） オフィスアワーは曜日を固定していません。メールでアポイントの連絡をください。個別に日時を合わせます。 担当教員の研究室は保健学科棟中校舎3階にあります。